

豊橋市民病院
臨床研修小児科・産婦人科プログラム

豊橋市民病院臨床研修小児科・産婦人科プログラム概要

1. 名称

豊橋市民病院臨床研修小児科・産婦人科プログラム

2. プログラムの特色

当院は愛知県東三河地方における基幹病院であり、救急医療・高度医療・研修医教育を行い、病診連携システムを用いて地域医療と連携を行っている。

また、当院には全 37 科の診療科の他に救命外来センター、救命入院センター、総合周産期母子医療センター（母体・胎児部門と新生児部門）、総合生殖医療センターなど 17 のセンターを有しており、高度な医療を提供できる施設が整備されている。その充実した環境の中で、救急をはじめとするプライマリ・ケアの基本的臨床能力を備えた小児科専門医・産婦人科専門医の養成を目指し、様々な疾患を研修することができる。

3. プログラムの概要

【小児科】

当院は日本小児科学会専門研修基幹施設、日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医基幹施設に指定されており、小児における多くの分野の診断と治療に力を入れている。従って将来の小児科専門医の取得、およびその後のサブスペシャリティの選択を考えている医師にとって、当院での研修は極めて示唆に富む。

周産期については、愛知県における総合周産期母子医療センター7施設の一つであり、院内での出生 705 名のうち約 300 名が何らかの原因で NICU・GCU に入院となっている。院外への出迎え搬送 106 件を加えると 358 名が入院しており、多彩な新生児疾患が東三河全域から集まっている。産婦人科医師と週 1 回のカンファレンスを持ち、胎児と母体の最善のタイミングで娩出できるようディスカッションを重ねている。リスクの少ない帝王切開にも全例立ち会っており、決定から児娩出まで 30 分以内を求められる超緊急帝王切開についても対応できている。

小児病棟では年間延べ約 12,000 人の入院があり、1 日あたり約 33 名が入院している。その疾患は感染症、血液腫瘍疾患、アレルギー疾患、腎疾患、内分泌疾患などが多く、治療が長期にわたる児に対しては院内学級も併設されている。食物負荷試験（アレルギー）、腎生検、内分泌負荷試験など専門的な検査も行われている。また持続的血液濾過透析などの血液浄化も集中治療センターの協力を得て行っている。

当院の小児科専門医のサブスペシャリティとして、新生児、血液、腎臓、アレルギー、内分泌、遺伝、の専門医資格を持つ医師が 14 名在籍している。また非常勤として神経、循環器、の専門医が診療を行っており、幅広くかつ専門的な医療が行われている。小児科専門医を目指す研修医にとっては、東三河全域から集まってくる小児患者に対して、サブスペシャリティを持つ経験豊富な医師とともに診断・治療にあたることができ、充実した研修医生活と小児科専門医資格の獲得、さらには小児科サブスペシャリティへの興味の醸成を可能にする。

小児科プログラムであるが自由度が高く、選択できる研修分野は幅広く設計されている。これは小児科プログラムでも初期研修時代に様々な科を経験したい研修医にも、小児科プログラムだからこそ初期研修から小児にフォーカスした研修をしたい研修医にも対応するためである。

【産婦人科】

当院は日本産科婦人科学会専門研修基幹施設、日本周産期・新生児医学会周産期（母体・胎児）専門医基幹施設、日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設、日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設、日本生殖医学会専門医認定研修施設、日本女性医学学会認定研修施設に指定されており、産婦人科全ての分野の診断と治療に力を入れている。従って将来の産婦人科認定医の取得、およびその後のサブスペシャリティ（産婦人科関連のすべてのサブスペシャリティ）の取得を目指す医師にとって、当院での研修は極めて有利と言える。

周産期については、愛知県における総合周産期母子医療センター7施設の一つであり、積極的にハイリスク妊婦の母体搬送を受け入れ（2020年度は205件と愛知県内でもトップクラス）、入院後は母体胎児集中治療室（MFICU）にて診療を行っている。小児科新生児専門の医師と綿密な連携を取り、母児の予後を良好にするように努めている。分娩数は、2020年度は705件行っている。決定から児娩出まで30分以内を求められる超緊急帝王切開についても、全例安全に施行できている。

また、婦人科腫瘍関連では、婦人科癌の症例数が非常に多い。浸潤癌症例は年間140例にもおよび、愛知県内でも症例数は3-4番目の多さである。腫瘍専門医は4名在籍し、若手医師の指導に当たっている。婦人科手術は開腹術が240件、腹腔鏡手術が548件と、腹腔鏡手術は非常に多く愛知県内産婦人科施設で最も多い。このうちロボット支援下手術（ダビンチ手術）は日本国内でも症例数はトップクラスであり多くの国内施設から手術見学に来ている。

生殖医療は体外受精を多く手掛けている。特に受精卵の質をタイムラプスで診断することを世界で初めて開始し、その結果を世界へ発信している。採卵、胚移植の技術を学ぶことができるが、ライセンス制度で行っているため、患者さんに信頼してもらえらる一定のレベル以上の安定した技量に到達できる。挙児を前提とした子宮筋腫や子宮内膜症などの治療についても、周産期や婦人科の連携で行っている。不妊カウンセリングの分野も積極的に学ぶことができる。

女性のヘルスケア分野の診療も積極的に行っているため、外来診療および手術症例も数多く経験できる。

このように、産婦人科診療の全分野で質の高い医療を行っており、産婦人科医を目指す研修医にとっては、理想的な研修病院と言える。

4. プログラム責任者の氏名

プログラム責任者：小山 典久 副院長 兼 卒後臨床研修センター長

5. 臨床研修を行う分野並びに当該分野ごとの研修期間及び臨床研修病院又は臨床研修協力施設

月	期間	研修分野	病院・施設
1	28 週	内科	豊橋市民病院
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8	8 週	外科	豊橋市民病院
9			
10	4 週	(選択必修) 整形外科 脳神経外科 泌尿器科 耳鼻いんこう科	豊橋市民病院
11	8 週	救急部門	豊橋市民病院
12			
13	8 週	麻酔科	豊橋市民病院
14			
15	4 週	小児科	豊橋市民病院
16	4 週	小児科（新生児）	豊橋市民病院
17	4 週	産婦人科	豊橋市民病院
18	4 週	精神科	豊橋市民病院 松崎病院 こころのケアセンター 医療法人義興会 可知記念病院
19	4 週	地域医療	新城市民病院 新城市民病院 作手診療所 浜松市国民健康保険 佐久間病院
20	8 週	志望科	豊橋市民病院
21			
22	12 週	選択科目	豊橋市民病院
23			
24			

※1 年次ローテートについては、豊橋市民病院卒後臨床研修プログラムと同じとする。

※選択科目では、総合内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、消化器内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、一般外科、呼吸器外科、整形外科、リウマチ科、脳神経外科、小児科、小児科（新生児）、産婦人科、耳鼻いんこう科、眼科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、麻酔科、救急科が選択できる。